

○2番（山口 等君）〔登壇〕

皆さんおはようございます。ただいま議長より登壇の許可をいただきましたので、2番山口等の一般質問をさせていただきます。

まずもって、ここにこのたびの東日本大震災によってとうとい命を失われた方々の御冥福をお祈りし、ともにまた被災されました方々に心からお見舞いを申し上げます。

今回、4項目の質問を予定しております。初めに、武雄市の防災体制でございます。それで2番目に、「みんなのバス」を4番目から繰り上げてしたいと思っております。それで3つ目に、旧市民病院の跡地の活用について、最後に、現在北方町の宮裾にて造成中であります武雄北方インター工業団地の誘致活用についてでございます。

では初めに、武雄市の防災体制についてでございます。

震災発生から3カ月が経過しましたが、私自身、発生して2カ月後の去る5月10日より、4日間市議会議員の皆さんと、ここにおられる樋渡市長初め市の職員の方と、宮城県仙台市の若林区において、みずからボランティアとして被災地民家の瓦れきの撤去作業に従事してまいりました。この貴重な体験をさせていただき、このような機会を与えていただいたことを、まずもって感謝申し上げます。

今回、武雄から宮城県仙台市までの約1,600キロの道のりを車で行き来しましたが、実際に見る被災地の光景は言葉を失うぐらいでございました。ニュース、新聞等で報じられている状況よりはるかに悲惨な状況でございました。ニュース等では報じることのできないような津波のすごさ、瓦れき類の多さに驚くばかりで、恐怖さえ感じたものでございます。

また、現地に行ってみてわかったのですが、何とも言いようもない強烈なおいが立ち込めておりました。そんな中での作業は、民家の瓦れき撤去作業でございました。築80年以上になる家の周囲と倉庫の中の片づけを、被災された方と一緒にスコープと一輪車による人力作業でございましたが、樋渡市長初め、皆さん本当に一生懸命仕事させていただきました。

作業最終日の別れの際に、我々あてに1通の手紙をいただきました。今回、行っていただいた作業は、震災に遭った私たちだけでは10年以上もかかる片づけごとでございましたが、それを3日間程度で終わらせていただき本当にありがとうございましたという内容の手紙でございました。

実際に、被災に遭った方には作業をするような気力、体力はございません。いろんな支援物資、義援金もちろん必要ですが、今回、被災地の現場で行った行動こそ、本当の被災地支援だと思います。被災された方と直接話ができて、心のケアをしながら、一緒になって作業をし、その方たちのお役に立てる、このことが今回できたこと、本当に貴重な経験をさせていただいたと思っております。

質問に入りますが、我が武雄市の地域防災計画を確認してみましたが、今回のようなきめ細かな人的支援の体制づくり、組織づくりが計画として入っておりません。ぜひ、防災計画

に盛り込んでいただき、人的支援体制を整え、即対応できるよう、防災計画にこのことを盛り込むことが必要だと考えます。このことについてお伺いいたします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

人的支援体制についてお答えをいたします。

5月18日に地域防災会議を緊急に開催をいたしまして、その中でも申し上げたんですが、災害姉妹都市の締結を急ぐと、これを8月末をもって、今のところ大阪府の某都市、高槻市を想定していますけど、高槻市、そして、あとは近距離、これは前田副市長がやっぱり近距離恋愛もせんばいかんぞということで、長崎ということで、新幹線ルートを想定してちょっとやっぱり考えたいなというふうには、今思っています。これは、議会にもきちんとまた原案をつくって御相談をさせていただければと思うんですけども、その中で、これは山口等議員も同じだと思いますけれども、やっぱり一番現地に行って見たとが、行政の混乱でしたよね。行政の混乱。これはもう仕方がないんですね。あれだけの千年に1回の災害があったときに、混乱しない人はいません。しかし、その混乱の程度をある程度抑えるというのはできる。それはいつかという、今なんです。

ですので、歴史の教訓にもありますように、有事に向けて平時に備えるといったことから、災害姉妹都市の締結で何を一番最初にやるかということは、1つは、まずこれはやっぱり行政大事だと思うんですよ。ですので、職員の交流をやります。職員の交流をやる。その次に大事なのは、やはり政治家、我々議会、議会の皆さんたちの交流をやる。それと、地域の、これ我々だけで政治家だけでやっても話になりませんので、行政だけでやっても話になりませんので、あとは地域の皆さんたちとの交流をきちんと行うということで、まさにいつ起こるかもしれない災害に備えて、日ごろから交流をして、あ、何かあったときはあのおばちゃんちに行こうねとか、うん、何か向こうであったときは、じゃ、うちで何とかしましょうと、あるいは、人的支援以外に、例えば備蓄もそうです。さまざまな情報伝達もそうです。ですので、それをちゃんとやるのがやっぱり市民の安全・安心を確保するのと同時に、市民の皆さんたちがやっぱり安心をしていただけるというふうに思っておりますので、ぜひこれは、災害姉妹都市の締結は、これ繰り返しいろんなところでも申し上げていますが、8月末までにぜひ入れたい。

その上で、これは絵にかいたもちになりかねないんですね。ですので、9月になると思いますけれども、今度は原発の被害を想定して、これも議会にちゃんと計画はその前にお示ししますけれども、防災訓練、防災訓練もちゃんとやる。去年は、ツイッターとか最先端の情報機能を使ってやりましたけれども、今度、実際に起きたときに、市民の皆さんたちがどこに逃げればいいのかということ、これをきちんとやるということをやりたいというふう

に思っておりますので、いずれにしても長くなりましたけれども、議員がおっしゃるように、人的な支援体制、応援体制というのは最も大事だと思っておりますので、これに力を尽くしてまいりたいと、このように考えております。

○議長（牟田勝浩君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

今回、瓦れきの片づけ作業のほかに、実際被災地の避難所に行きまして、被災された方と色々な話をしたんですけれども、心は暗くても明るく振る舞おうという雰囲気、私自身本当に大変だなというところで、そういう気持ちもうかがわさせていただきました。

ちょっと1つ写真があるんですけれども、（パネルを示す）この写真をごらんください。

これは、避難された六郷中学校の体育館の中です。我々が被災された方をちょっとお伺いしたところ、こういうふうに、この方は大友よし江さんという方なんですけど、市長もお話しされたんですが、応援歌を歌って皆さんを励まそうという気持ちで一緒になって、されていました。特に、こういう雰囲気もなかなか見ることができない映像だと思いますけど、この写真もそうです。（パネルを示す）これが六郷中学校の体育館の避難所です。我々がお話をして、この方が大友よし江さんという、非常に明るい方だったんですけど、こういう方が演歌とかを歌って、皆さんを和ませるような雰囲気でした。

それともう1つの写真なんですけど、（パネルを示す）これもそのお仲間、笑顔も本当の笑顔じゃないと思うんですけど、こういうふうに明るく振る舞おうという努力がされていました。

こういうことを見られて、市長どのようなことを感じられたか、一言お願いします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

先ほどの写真、一番最初の写真で、私たちはよし江ちゃん、よし江ちゃんというふうに申し上げたんですけど、この方は震災が起きたときに、両隣の自宅は死者が出たんですね。たまたま大友家だけは出なかったというところで、震災直後に20キログラムやせられたということ。そして、実際よし江ちゃんは地域のリーダーなんですね。気丈にも振る舞っておられて、体育館でもやっぱりリーダーの役割を果たされて、我々がやっぱり最初、ほら、ね、議員、行ったとき、最初はうさん臭そうな目で見られましたもんね。しかし、本当にですね、また等さんがあがん一生懸命すっと思わんやったですよ。もう本当に一生懸命されて、それがやっぱり伝わったんでしょうね。我々のチーム武雄は、体育館に呼ばれたのは初めて、正式に招待、よし江ちゃんが何と言ったかという、私の家に来てくださいと言いましたもんね。おばっちゃんの家、そこでもうあいたいね、うったおるごとしとろうもんと言う

たですよ。そいぎ、いや、今、一時の仮住まいが体育館やけん、ぜひ来てくださいということで、ね、こうやってもうちよつと調子の外れた歌を歌っていただいて、ね、もう感動したですね。それが、やっぱりそれが、チーム武雄が元気にしたということだと思っんですよ。

その上で、私、これは絶対大事だと思ったのは、この体育館は、例外的に雰囲気がいいところだったんですね。体育館もいっぱい被災者の方々が入られていて、体育館に応じて全然雰囲気が違うわけですよ。僕、雰囲気の悪かところも行ったことあつですもんね。そのときに何が違うかというぎ、やっぱりリーダーなんですよ。リーダー。ここはたまたまよし江ちゃんがリーダーやけん、物すごいい雰囲気。もう1つは、仕切り屋さんのごた人のおっらしかですね。そういったところは悪い雰囲気。ですので、地域のリーダーがきちんと入って行って、しかも、行政ときちんとやっぱり連携をしているというところがすごい大事だと思っましたので、これね、もう見て本当にわかりました。

これを、我々は政治家として、やっぱりこういう体験を行政、あるいは自分たちの政治に生かして、ということが求められているというふうに思っましたので、これは本当にいい勉強になりました。

そういう意味で、ぜひ私お願いしたいのは、やっぱりよし江さんをぜひ武雄に呼びたい。呼んで話を聞いてもらいたい。そうすると、いかにこの前の震災が悲惨だったか。そして、本当に名もなき一般の方がこれだけ頑張っているかというのは、生で聞かんぎやっぱりわからんですもんね。本来なら我々が行かんばいかんばつてんが、なかなかそういう時間もお金もない。とすれば、呼んで、1回そういう貴重な機会をぜひ私はつくりたいというふうに思っっております。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

（パネルを示す）この写真がよし江さんの自宅の前ですね。御主人と一緒に撮った写真なんですけど、これがもう最後の日の、別れのときの写真でございます。このときに、先ほど言っった手紙が渡されて、本当にここでもう帰っていいのかなというふうな、まだしばらくはおつて、本当は手伝わないかんのかなという気持ちで、ちょっと複雑な気持ちでございました。

こういったことで、本当に大変な目に遭われたのを、我々身近にして、これから先、もし何か機会があれば、こういったお話をぜひ市報とか、そういったところでもやっていきたいなと思っっております。

ちょっと質問に入りますけど、幸いにして我々が住んでいるところは、地震、津波等はそんなに被害はございません。また経験もないんですが、ただ、防災無線についてはとても重

要なことだと考えます。前回は質問がなされておりましたが、無線が入りづらい難聴地域対策として、どのようなことを今計画されているのか、お聞きします。

○議長（牟田勝浩君）

角政策部長

○角政策部長〔登壇〕

おはようございます。防災行政無線の2次整備でございますが、今年度予算で子局の50局を増設したいというふうに思っております。設置場所については、今、区のほうと検討中でございます。

それともう1つ、防災無線音声案内サービスというのを導入したいと思っております。これにつきましては、子局の音声は明瞭に聞こえる範囲というのが半径300メートルということでございますので、今回は、子局プラスこのサービス、音声サービスを設置して、聞きづらい地域の解消をいたしたいというふうに思っております。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

防災無線は万能じゃないんですね。仙台の若林区、あるいは陸前高田市に入ったときも、実際、防災無線が聞こえたのは最初だけで。あとは流されたり、充電の電源がストップしたらもうすぐ使いもんにならんやったということですので、これね、ぜひ市民の皆さんに呼びかけたいのは、要するに防災無線を聞こえた方が、実際、私は、例えば山口等さんのところに言おうとか、上田雄一さんのところに言おうとか、それは絶対やっぱりあったほうがいいんですよ。昔、ほら、江戸時代、五人組ってあったじゃないですか、ね。あれはそういう機能なんです。要するに、おかつびきから聞いた話を五人組の家族のところに伝えると、だから江戸の大火でも、あれだけの大火が起きたときに、死者はそれほどでもなかったというのは、五人組がしっかり機能していたところなんです。ですので、ぜひこれは市民の皆さん、お願いがあるのは、本当に陸前高田とか、議員と一緒にいった仙台の若林区でも思ったんですけども、いかに聞いたことを伝えるかと、しかもそれはパニックになります。もう実際あれがあったときに、だからもういつでも、もう何か起きたときは裕子さんに言おうねとか、良広さんに言おうねとか、陽輔さんに言おうねとか、そういう心構えをぜひお願いをしたいというふうに思っています。ですので、私は大体市役所におりますので、いたときはあれですよ、いろんなところに、携帯もすぐに通じなくなるんですよ、実際、携帯も。ですので、やっぱりもう一番はあごです、あご。あごで、そういうふうにどんどんやっぱり伝えるというのがすごい大事ななことだと思いますので、防災無線は整備として、先ほど部長からあったとおりしっかりやっていきます。やっていきますけれども、それだけでは十分でないというのは被災地の現状からよくわかりましたので、それをさらに補完するように

やっぱりしていただきたいというふうに思っております。

○議長（牟田勝浩君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

先ほど言いましたけど、今回のボランティアで貴重な体験をさせていただきました。本当にこういったことを皆さんに、機会あるごとにお話しして、防災対策に努めていきたいと思っております。

そしたら、次の質問に移ります。

「みんなのバス」の事業についてでございます。

この事業は、市長の具約として取り組まれ、車両の寄附や補助金の活用で、しかも市費の持ち出しがなく、周辺部の交通弱者対策としてスタートした事業でございます。昨年9月からことしの2月までが山内、北方、武内、若木ということで実験運行をなされました。その実験運行を踏まえて、いろいろな要望等がありましたので、それを区長会等でお話し合いをされ、新たな運行方法で、ことしも5月から9月までの予定で運行されるようになっております。

それで先日も、北方町において、バスに乗車させていただきましたが、そして、利用者の方の意見を聞くことができました。9名の方が乗ったりおいたりされたわけなんですけど、皆さんの意見としては、まず、何で9月までやろうかと、それと、実験運行は去年で終わったじゃなかねと、それでまた、本格運行はそいぎいつからしんさっとやろうかと、月に1回、2回ぐらいは日曜日でも運行ができんやろうかと、そういったお話が聞こえてきました。これは、山内町のほうにおいても同じような言葉が聞けたわけなんですけど、まず、10月以降の運行はどのように考えておられるのか、御質問いたします。

○議長（牟田勝浩君）

山田つながる部長

○山田つながる部長〔登壇〕

「みんなのバス」についてですけれども、先ほど議員から紹介していただきましたように、平成22年度から実験運行を開始しまして、さらに実験運行ということで、ことしの5月から山内、北方、武内、それから、6月からは若木町においても実験運行を実施しているところでございます。

実験運行につきましては、昨年と同じような体制で前半はやるということで、10月以降につきましては、同じ実験運行でございますけれども、現在、運転士さんと、あと補助員ということで2名乗車していただいておりますけれども、10月からは1名体制にして、運行を継続したいというふうな形で実験運行を、中身を少し変えたいということで思っているということでございます。

後半の実験運行につきましては、一応10月から2月までを予定しているということで、本格運行に向けた体制づくりをやっていきたいということで考えております。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ちょっと答弁、一部修正します。2月までして、平成24年度からということになると、2カ月間またあいてしまうわけですよ。これじゃだめですよ。ですので、私は、先ほどの答弁を撤回して、切れ目なくやります。切れ目なくやった上で、私も、これは私の責任なんですけど、実験運行とか本格的運行とか言わんがましやったと思って、もう本格運行も実験ばしならせんばいかわけですよ。ですので、これはもう私の責任でございます。ですので、やっぱり我々とすれば、やっぱりきょう北方町から山下さんもお見えになっていますけど、やっぱり一生懸命地域の方々とされているわけですよ。

それと、やっぱり地域のニーズというのは、ないところとあるところがあります。ただ、地域のニーズと地元の皆さんたちの熱心さですよ。これは行政だけじゃカバーできませんので、そういったところを含めて、きちんと切れ目なくやっていきたいと、このように思っております。

だってあれですよ、きのう、残業禁止令を出して、佐賀新聞に早速載せてもらいましたけど、もう残業代が2カ月でもう1,000万円ですよ。財源ないないと言っているけど、あるんですよ。ですので、私は、そういう市民の皆さんたちを、本当に困っているところに限られた予算、訴えられていますよ僕も、やっていきたいと、このように思っています。

○議長（牟田勝浩君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

ありがとうございます。本当、若木町においては、現在マーケットがなくて、野菜とか肉とか魚等を買うためには町外に出ておられるわけなんですけど、現在、市内の循環バス等と接続もして運行されておりますが、月2回ほどでも路線バスのない日曜日に運行できないのか。そのあたりのところをよろしくお願いします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

基本的に、これはよく詰めますけど、私は日曜日というのは運行はしないほうがいいと思っているんですよ。というのは、やっぱりタクシーの関係とか、タクシーの皆さんたちも頑張っておられるとかというのがあって、余りにやると民業圧迫になりかねないんですね。ですので、大原則は、やっぱり路線バスを、路線バスないときもありますけど、やっぱり路

線バスだったりとか、地域の皆さんたちと例えば車に乗せてくんしゃる、これもコミュニティーなんですよね。ですので、やっぱりどうしてもそれが無理なときに、私は「みんなのバス」というふうに思っているわけですよ。ですので、対象が例えば病院であるとか、あるいはどうしてもお金をおろさなきゃいけない金融機関であるとか、そして、平日のスーパーとか、小売り店舗とか、だからそういうふうにやっぱり補完的に使うのが「みんなのバス」かなど、余りやると「みんなのバス」からワンマンバスになっちゃいます。すみません、ですので、そういうふうにやっぱり地域の全体の交通体系と比べてやるということなんで、ただ、さっき議員から御指摘があったように、路線バスが確かに日曜日通らないところってあるんですよ。日曜日頼みづらいとかというのものもあるのかもしれませんが、それは、個別ニーズに応じてよく相談をしたいというふうに思っています。ですので、余りこれをぎちぎち原則こうだとかというのは立てずに、地域によってやっぱり大分異なるわけですね。例えば、船ノ原と若木でもやっぱり大分違うわけですよ。ですので、それは、ニーズにやっぱり応じてきちんときめ細かくやっていきたいと、このように考えております。

○議長（牟田勝浩君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

本当、これも若木町のことなんですけど、公民館を活用して、今月から毎週火曜日にふれあいサロンというのをやっておられるそうです。集まっていたいて、スカットボールをしたり茶話会をしたりして、2時間ほど楽しく過ごされて親睦を深めておられるんですけど、ここに集まる手段として、この「みんなのバス」を利用されておられます。このサロンに見える方が多くて、バスに乗れないときもあったというようなことも聞いております。高齢者の中には、ひきこもりがちな老人とかそういう方もおられて、外へ出て行って、皆さんと一緒に楽しく遊ぶような取り組みもなされており、このことが本当の達者か老人といいますか、そういう手本であり、このようなことで利用されるバスこそが、本当の「みんなのバス」ではないかなというふうに思います。

それで、今年度もこの事業に約1,800万円ぐらいの予算を計上されておりますが、県からの補助金も今年度で終わるわけなんですけど、これから先も維持していくためには、皆さんの地域全体でのこの事業に対する地域づくりといいますか、意識づくりといいますか、そういうのも必要かと考えますが、このことについて、市長どう思われるか、お願いします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

確かに、来年度以降というのは、今、国の緊急雇用の助成金ば活用しようですもんね。運転士さんにはそこから出しているということで、その部分に関しては、市費は使っとらんわ

けですね。ですので、この補助金が形を変えて取れるか取れないか、というのは一つのポイントだと思いますけど、でもやりますよ。福祉でもやっぱり喜ばれることはやらなきゃだめ。これを財源がないからといってできないというのは、それは、私は政治の筋違いだと思います。もう余りしよったら民主党みたいになってしまいます。

ですので、私は財源の確保、これは優先的にやっていきたいというふうに思っています。やっぱり見れば、さきの残業代もそうですけれども、残業全部いけないと言っているわけじゃないかもしれませんが、2カ月でやっぱり1,000万円というのは余りにも多過ぎる。多過ぎます。ですので、こういうのを見ながら、やっぱりそれをちゃんと市民福祉の維持向上に使うということが、私は、我々政治家に課せられた役割だと思っていますので、それは財源の確保、しっかりやっていきたいと思っています。とにかく、やっぱり「みんなのバス」ができないような武雄市だったら、僕はだめだと思います。

やっぱりさっき話がありましたひきこもりの、僕の知人でもいますけど、やっぱり「みんなのバス」ば使って、それで恋愛の始まったというともあつとですよ、恋愛の、「みんなのバス」の中で仲良くなって、ね。それでほんなごて市長さんよかったて、何か使い方間違つとんさとかないかと思いましたが、それはいいですよ。だから、そういうふうにやっぱり生きがいとかやりがいとか、そういう生活が本当によくなるということであれば、私ぜひやっていきたいと思っていますので、そのときに欠かせないのは、先ほど議員からありましたやっぱり地域の応援です。こがんとああばいとか乗ってみんないとか、あるいはちょっと人手が足りるときは、私が運転してよかばいとかというような、そういう自発的な取り組みもぜひ期待したいところでありますので、そういう意味での御協力をお願いをしたいと、このように思っております。

○議長（牟田勝浩君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

いずれにしろ、前回も言いましたけど、このバスは、ただ単に人を目的地まで運ぶようなものではございません。運転される方と会話されたり、バスの中での憩いの場をつくっていただく空間でもあります。また、移り行く景色を見ながら、四季折々の情景を見ながら、皆さんと話ができ、地域づくりができるんじゃないかと考えます。どうか市民の足となるように、これから先もぜひ予算をつけていただいて、継続して行ってほしいと思います。

そしたら、次の3番目の旧市民病院跡地の有効活用についての質問でございます。

皆さん御存じのとおり、新武雄病院は、国道34号線沿いに移転して、6月1日より診療が始まりました。この病院は、ヘリポートつきの鉄筋8階建てというすばらしい病院でございます。樋渡市長が提案されておりますメディカルリンクタウン、医療でつなぐまちづくりを目指して、この病院がこれから先、基盤となって、武雄市の発展に貢献するものと期待をし

ております。

そこで、質問に入りますが、移転した市民病院跡地は、今では電気も消え、夜は真っ暗な状態でございます。昨年9月の議会でも話しましたが、跡地の有効活用の検討委員会を設置すると言われておりましたが、そのことがどうなっておるのか、お尋ねします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

引っ越しがこんなに大変だと思わなかったですね。今、6月1日から、今、あれは住所はあそこは小楠になるのかな、どこになるのかな、小楠……（「小楠でしょう」と呼ぶ者あり）失礼、小楠の新武雄の34号線バイパスのところですよ。もう物すごい民族の大移動みたいな移動をしたわけですよ。まず、引っ越して、巨樹の会が、それは当然ですけども、全精力をそこに傾けたということと、もう1つが旧市民病院は、今、巨樹の会の所有なんです。そうすると、今後再活用するにしても、例えば、水道施設であるとか電気の部分であるとか、さまざまな、これね、耐震もなっていない可能性があるんですよ、これ、耐震が、信じられないでしょう、耐震が、ね。そういったこともすべて見直した上で、やっぱりどういうふうに活用するかと、だから、あるところで、例えば、1病棟、2病棟、3病棟ってあるじゃないですか。その中でも使い物にならないようなところもあるんですよ。ですので、それは実際、所有者の巨樹の会が1回ちゃんと精査をしてみて、いやここは使えます、使えませんと、ここは改良します、改良しませんと言った上で、私は検討委員会をつくりたいというふうに、今、気持ちを変えました。

その上で、私が申し上げたいのは、実際、巨樹の会が、恐らく今後質問にあるかもしれませんが、メインに使っていただくと、これは市民要望もやっぱり医療の延長として使ってほしいというのはあるんですね。そこで、所有者の巨樹の会が何らかの形でそれを使う。それでも全部使い切れるわけじゃないんですよ。前、私が選挙のときに申し上げました。廃墟にしないということ、そして、市民交流の場にしたいということで、例えば、婦人会とか老人会さんとか、さまざまな団体の、今、集まる場所がないんですね。道具を置くスペースもない。ですので、そういったところで活用していただこうというふうに思っていますので、しかも、子育ての世代の皆さんたちのために、天井が高いところもありますから、遊具もあそこだったら入れられるんですね。それは、市の責任でやっていきたいというふうに思っていますので、いずれにしても、やっぱりメインの巨樹の会がどういうふうにまず使うか、それを示してもらった上で、市民が、きょう、川良の区長さんもお見えになっていますけど、川良の区長さんたちも入ってもらって、特に武雄町民の皆さんたちに入っていて、どういうふうに活用するかということを決めていきたいと、このように思っております。

これで最後にしますけど、ただ、今、まだ巨樹の会が、小楠の病院のほうで、向こうの医療業務で手いっぱいなんです。ですので、ちょっと時間をいただければありがたいと、このように思っております。

○議長（牟田勝浩君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

この建物は、長い間、国立病院、そして市民病院と利用されて、皆さんの行き来があった場所でございます。移転してしまった今は、病院の跡地は、本当近所の方ほどがんなつとやろうかと、本当に関心があるというか、ちょっと心配でもあります。

そういったことで、先日新聞に、これは佐賀新聞なんですけど、移転後は障がい者の自立支援や回復期のリハビリができる施設として活用し、一部は市に福祉施設として貸し出すというような記事が載っておりました。今、言われたような子育て支援センターとか保健センター、高齢者の憩いの場と、いろんな施設が考えられると思うんですが、市として具体的にどのようなお考えなのか、先ほどとダブるようなことかわかりませんが、そしてまた、地域の雇用の場となるのか、そのあたりをお伺いします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

お答えいたします。

まず、5月23日付の佐賀新聞におきましては、障がい者の自立支援や回復期のリハビリ施設、一部は市に福祉施設として貸し出しを行うというコメントが載っております。これは巨樹の会からのコメント、そして、同日、23日西日本新聞には、武雄市の福祉法人と協力して回復患者がリハビリ生活を行う有料老人ホームを9月1日にオープンをするということを言われております。これは、私は、そこまでちょっと実は、所有者は別ですから、発言は自由であっていいと思うんですけど、確認したところ、大体そういう感じで進めたいと。9月1日になるかどうかというのは、これは認可の問題もありますので、そこまで明確にはちょっと言い切れないけれども、基本的には、佐賀新聞、西日本新聞がコメントしたとおりにしていきたいというふうに言っていますので、これがきちんとなると、これはすごく市民の福祉の維持向上に直結する話になると思うんです。その上で、こういったサービスというのは、もう特に介護サービスとかそういったものについては、人は必ず必要ですので、これはダイレクトに雇用にもつながっていくというふうに思っています。

そういう意味で、私は役割分担として、小楠の国道34号線バイパスの新武雄病院は24時間365日の救命救急医療の拠点、そして、かかりつけの医院の皆さんですよね。例えば、まつもと内科クリニックでもそうですけれども、そういうかかりつけ医のお医者さんというのは、

市民と密接に結びついたところであると。それともう1つ、なかなかその部分ではカバーできないというのが、例えば、市内にある老健とか介護施設だと思うんですけども、その一角として、旧市民病院がそこに入ってくるというような図式になるのかなというふうに思っていますので、そういう意味で、きちんと見守って、行政としてできる応援はしっかりしていきたいなというふうに思っております。

ただ、やっぱり訴訟問題というのは大変なんです。やろうとしても、あんた訴えられとうとけですよ、何でそがんことば言えるんですかという、これは結構県外の人から言われるっです。ですので、本当に私がどうこういう立場でもあるんですけども、それも市民の皆さんたちにはぜひ御理解をしていただきたいと、このように思っております。

○議長（牟田勝浩君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

何らかの福祉施設が開設するまでは、裏山の土砂災害のこともありますので、青色パトロールといいますか、そういう巡視もしていただいて、不法投棄等がないようお願いしたいなと思うんですけど、そのあたりのことを伺います。

○議長（牟田勝浩君）

山田つながる部長

○山田つながる部長〔登壇〕

今、御指摘のありましたように、現在は閉鎖されておりますので、青色パトロールのルート等にも加えまして、見回り等については実施をしたいというふうに考えております。

○議長（牟田勝浩君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

地元としまして、ちょっときょう区長さんもお見えなんですけど、防犯パトロール等も毎日のようにされております。それで、地域でもってそういう見守りをしていただいて、ぜひ一日も早い福祉施設の開設ができ、これまでのように人の往来ができるような施設になっていくことを望んでおります。

それで、最後の質問に入らせていただきます。

武雄北方インター工業団地の企業誘致についてでございます。

現在、北方町宮裾地区において、工業団地の造成工事が進んでおります。この10月からは、いよいよ分譲開始となっていくわけなんですけど、この事業は県との共同事業でございます。総事業費28億円、高額のすべてが武雄市の借り入れで行うという事業なんですけれども、現在、若木の工業団地においても、まだ若干売れ残っている状況でございます。この宮裾地区の工業団地におきまして、現在のところ、企業からの引き合い等があるのかどうか。

そのあたりのところをお伺いたします。

○議長（牟田勝浩君）

北川営業部理事

○北川営業部理事〔登壇〕

おはようございます。ただいまの御質問ですが、今、引き合いがあっているのかということだと思います。

ここ1年、問い合わせを含め、数件あってございます。その中で、工業団地の引き合いの前に、山内町の三間坂の堀切団地というのがございます。ここに、旧九州電機の工場跡に、このたび企業の立地が決定をいたしましたので、御報告をさせていただきたいというふうに思います。

その会社は、大町町に九州住電精密さんがございますが、この協力工場でございます大阪府箕面市に本社を置く株式会社富士精機製作所という会社でございます。ここにつきましては、住友電工グループで超硬合金の小型ドリル等をつくるメーカーでございます。この7月6日からもう操業開始をしたいということで、今準備にかかられておりまして、7月1日には正式に武雄市との進出協定の調印、それから、プレス発表を行うことにいたしております。詳しくはそのとき発表があると思えますけれども、提出された事業計画書の中の雇用者数につきましては、今年度9人の雇用、それから来年12人、それから再来年5人と、全体で26人の雇用を予定しているというふうなことを聞いております。そういうことで、徐々に企業が武雄市に立地をするというふうなことでございます。そのことをちょっと御報告をしたいというふうに思います。

それから、一方、今回造成をいたしております武雄北方インター工業団地は、全体で18ヘクタールございます。分譲の基本方針は、18ヘクタール一括で分譲をしたいというのが方針でございますが、最低でも1区画5ヘクタール以上の3区画ほどを考えておりまして、問い合わせがあったのは、まだ規模面積が小さくてちょっとこの条件に合わないというものでございました。

企業誘致の状況といたしましては、リーマンショック以降の景気低迷、それから、今回の東日本大震災等により、依然として厳しいという認識でございます。そこで、少しでも早く企業立地が実現できますように、従来の企業誘致に関する奨励措置を拡充して、呼び込みを図りたいということで、今回、新条例等をお願いしているところでございます。

○議長（牟田勝浩君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

この山内町三間坂の工業団地のことは、非常に喜ばしいことだと思います。宮裾地区においても、誘致を有利に進めるために補助金の交付を考えておられます。武雄市程度の自治体

の中で、本当の破格の補助金だと思いますが、考えてみますと、そこに雇用が発生するわけ
でございます、これが若者の流出の防止になって、経済活性化につながっていくためには
決して無駄な策じゃないんじゃないかなと、私考えます。そのことについては、市長の英断
にエールを送るところでございます。工業団地を全部取得していただければ6億円、10ヘク
タール以上で3億円、また、5ヘクタールから10ヘクタールまでが1億円と、このような手
厚い支援策は県内のどこにもありません。それで、雇用の奨励金も多額の金額を考えておら
れます。まだ、造成工事は完了しておりませんが、分譲の単価設定といいますか、そ
のあたりはどのように考えておられるのか、お伺いします。

○議長（牟田勝浩君）

北川営業部理事

○北川営業部理事〔登壇〕

お答えします。

御指摘のように事業費につきましては、すべてが起債の事業でございます。当然、早く売
れないと支払利息がつくわけでございますが、できるだけ売りやすい分譲単価の設定が必要
だと考えております。

分譲単価につきましては、現時点では坪当たり5万円以下を目標に県と協議をいたしてお
りますが、これにつきましては、県東部地区につきましては、今、坪当たり10万円から12万円
と、それから県西部については、そういう状況の中で5万円以内でなければ売れないんじ
ゃないかというふうなことを話をいたしておまして、少しでも安く分譲できるように事業費
の抑制等努めているところでございます。

○議長（牟田勝浩君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

ただいま坪単価5万円ぐらいになるだろうということで聞きましたが、借り入れしての工
業団地の造成です。一日も早い分譲が望めますけど、分譲計画は大体5年間というよう
なことを聞いておりますが、もし5年間で分譲ができない場合、金利等はどうか、お伺
いたします。

○議長（牟田勝浩君）

北川営業部理事

○北川営業部理事〔登壇〕

5年間売れない場合にはどうなるのかということでございますが、この分譲につきましては、
大体5年を今想定をいたしております。もし売れない場合については、その残った部分
について新たな金利負担が生じますが、これについては県との共同事業ということで、現在
折半ということで考えております。

○議長（牟田勝浩君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

若木町にあります武雄の工業団地もまだ残っているような状況なんですけど、市としては、このあたりの若木町のことも考えられると思いますけど、どのような分譲を今後進めていくのか。このあたりのことをお伺いたします。

○議長（牟田勝浩君）

北川営業部理事

○北川営業部理事〔登壇〕

御指摘のとおり武雄工業団地には1ヘクタールの更地、まだ分譲がされていない1区画がございます。それからあわせて、2.8ヘクタールのあいた工場用地が1区画ございます。冒頭、引き合いの話でも申しましたけれども、企業さんは、大きいやつが欲しいという企業もあれば、中規模がいい、小規模がいい、さらに小さいほうもいいと、いうふうないろいろな企業のニーズがございます。この武雄工業団地の区画について、1ヘクタール、それから2.8ヘクタールというのは、小規模、中規模と言えるんじゃないかなというふうに思っておりますので、今回造成をいたしております武雄北方インター工業団地の18ヘクタールを大規模とするならば、小規模、中規模も準備をいたしておりますというふうな、大中小のバリエーションを持った武雄工業団地の適地紹介という形で紹介をしていきたいなというふうに考えております。

○議長（牟田勝浩君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

本当この事業は県との共同事業でございます。県と市が一緒になって企業誘致を進めていくと思うんですけど、行政だけではどうしても物足りないところがあるかと思うんですけど、このあたりのところはどうお考えなのか、お聞きします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

そのとおりなんですよね。これは、今、営業部の理事を中心にして組み立てをやってもらっているんですけども、ことし1月の関西懇話会であるとか各地の県人会、さまざまな縁のあるところに出向いて行って、その人たちにネズミ講と言ったら響きは悪いんですけど、どんどん呼びかけてもらおうということを、今しています。

その上で、一つのポイントになるのは、7月13日から15日まで東京ビックサイトで企業立地フェア2011に出展をしますのです、その際に、先ほど議員からも御指摘のありました若木の

工業団地も含めて、こういうバリエーションがありますよというのを、私自身行ってきます。私が今まで出不精でなかなか市役所の外にやっぱり出らんやったけんが、それをちょっと反省して、これから先はどんどん飛び回って、いろんな話をしていきたい。おかげさまで、今、これは議員の皆さんたち、市民の皆さんたちのおかげなんですけど、武雄と言ったらもうかなり知られるようになりました。知られるようになったのは、やっぱりそれは一つの強みなんです。その知られること、知名度がブランドにつながっている。だけど、これは繰り返し私もしつこいですから、繰り返し言いますけど、決してイメージよくないんですよ。やっぱりあなた訴えられとうでしょうもんという話なんですよ。ですので、やっぱりそういうこともぜひ、そういうのに負けずにどんどんやっていきたいと思えますね。

特に、今、武雄は、実態はどうかちょっとこれは別にして、とてもやっぱり元気のある市だと思われていますし、それで、医療関係も、医療環境も充実したところだというふうにも思われています。しかも、今度の宮裾の武雄北方インター工業団地もアクセスがやっぱり非常にいいということ。ただ、まだそれは知られていないんですね。

ですので、どんどんもう私も出不精を克服して、人見知りも克服してやっていきたいと、そのためには議員の皆さんたちのお力をぜひお願いをしたいと、このように思っております。

○議長（牟田勝浩君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

本当に優良の企業誘致が一日でもできるように、県も含めて全市を挙げて取り組んでいかなければいけないと思います。担当の企業立地課、行政だけ、また市長だけが一生懸命になってもできることではないと思います。武雄市からも優秀な人材の方がたくさん出ておられます。そういった方も含めて、全市を挙げて取り組み、若者の雇用の場となるような、元気、活力のあるまちづくりを目指して、お互い頑張っていきましょう。

最後になりますが、現在、武雄市役所内でウルトラクールビズがされております。中学校においても、このクールビズが取り入れられんかなというようなことで、期限を決めてなんですけど、通学を体操シャツでしたらどうかということを考えるわけなんですけど、市長、このあたりどう思われますでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

実は何日前ですかね、5日くらい前に、ちょうど武雄市内でランチをとっていたとき、私のところに中学2年生を持つお母さんとか、私のところにつかつかって来たんですよ。そいぎお金ば出してくんさっとかなと思ったら、さにあらず、ウルトラクールビズは非常にいいということをおっしゃって、ただ、中学校の中が、それはどの中学校かというのは武雄中

学校なんですけどプレハブで、私も行きましたし、議員さんも御存じだと思うんですけど、やっぱり暑かわけですね、プレハブが熱ば持って。クーラーが入るところもありますけど暑い。そしたら、子どもが帰ってきて、もう何か熱射病みたいになっているって、脱水、ちょっとプチ脱水症状があったりとかあるんで、これはやっぱり学校でも進めてくれんですかという話が私にありました。

直ちに、教育委員会に、理解のある教育長に話をして、きょう報告を受けましたけど、校長会のほうで、先ほど議員から御指摘があったように、体育以外の授業でも体操服、半袖、短パンの着用を推進するということ。涼しいスタイルで活動推進して、これはもちろん教育現場ですので、節電というよりもやっぱり勉強はしやすいっていうふうにする。確かに、例えば、今、山口良広議員が私と同じに白の服を着ていますよね。開襟シャツ着ていて、これは実は中身シャツば着とぎ2枚になっわけですね。うちの山田恭輔さんなんか、チョッキを着とぎ3枚ぐらいなっわけですよ。そうなったときには、やっぱり暑かわけですよ。しかも着がえがなかなかやっぱりしにかかですよ。ですので、やっぱり体操着というのは一つが洗いやすいということと、親への例えばクリーニングとか洗濯の負担とかも考えた場合には、それは一定私は合理性があると思いますので、教育委員会並びに校長会の決定は、本当に私支持をしたいというふうに思っています。

いずれにしても、最終的な決定は、今後のスタイルについては生徒、保護者、PTA、地域の声を聞いて、私たちのほうじゃなくて、学校側で決めていただくということになりますので、ぜひその際の応援もよろしくお願ひしたいと、このように思います。

○議長（牟田勝浩君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

いろんな検討がまた必要かと思ひます。ぜひこういった時期の対応としてやっていただければなと思ひます。

以上で私の質問を終わらせていただきます。